

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700914		
法人名	特定非営利活動法人りくべつエヌピーオー優愛館		
事業所名	グループホーム ゆうの里		
所在地	〒089-4311 足寄郡陸別町字陸別東1条4丁目1番地		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0174700914-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○平成17年2月1日1ユニット9人を開設し丸7年が経過した。また、平成24年4月1日からは、もう1ユニット9人を建設し、現在2ユニット18人が入居している。事業所が一番アピールしていることは、まず働くスタッフが元気に気持ちよく、そして長く利用者のために働ける環境をつくることです。特に働いているスタッフが一番厳しいのは宿直であります。開設時1ユニット9人のときは宿直2人体制で、2ユニット18人の現在は3人体制で勤務していますが、スタッフからは大変喜ばれています。
○利用者に関しては、年々生活レベルが落ちて来ているので、その落ちた分をスタッフが補う事は重要と考えております。そのためにも、職員の資質向上を図る意味でも、実践者研修などの専門研修に1人でも多く参加させていきたい。
○日々、日勤、宿直のスタッフが変わるので、わからない事や知らないこと、出来ないこと等、多々あると思うが、分からない、出来ない、疑問に思った事等の声を聞きながら、新しいスタッフの不安を取り除くための社内研修、介護技術研修を行おうと思っている。
○社内に親睦会があるので、町行事に参加したり、パークゴルフ大会、観楓会、忘年会等を開催し、親睦と交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

十勝平野北部の山間部に位置するこの事業所では、今年度より新しいユニットがオープンし、2ユニット体制で地域に密着した事業所運営を行っている。旧役場跡地に建設された事業所は、地域住民にとっては馴染みの場所にある。当事業所は行政機関が隣地にあることから、運営推進会議委員を含めて日常的に連携が図られ、また、地域活性化に向けた取り組みを主体として事業所運営に関わる意見交換を常に行っていることが大きな特徴である。また新ユニットが開設したことにより、認知症を患った高齢者の夜間対応や重度化対応を円滑に行うために、夜間体制は職員を3名確保している。さらに、新たにサービス全体を見直す機会として各種マニュアルを点検・見直しし、内部研修会を実施して事業所の課題を学習しており、全職員参加による業務改善に向けた話し合いは、サービスの質の向上に向けたものとなっている。代表者や管理者、職員は地域の取り組みに利用者とともに積極的に参加しており、地域との交流は今後も継続して充実が見込まれる。利用者個人の尊厳を守り、暮らしに対する意向を介護計画に盛り込み、計画の評価や変更を日常的に検討するなど、利用者本意で支援が行われており利用者及び家族にとって安心できる要因となっている。代表者及び管理者をはじめとする職員の熱意と活力により、今後さらなる向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・基本理念及びサブ理念があり、毎日、利用者の発声で朗読を実施している。	事業所では地域に密着した理念を掲げており、各種掲示物や書面に明示しわかりやすいように表示されている。また、毎朝職員と利用者は朗読して日々の振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事に積極的に参加することで、知人、友人との出会いを大切にしている。 ・生きがい通所事業、福寿荘利用者との交流を積極的に行っている。	事業所は旧町役場の跡地にあり、地域住民にとって馴染みの場所であり、事業所では地域にとって馴染みの場所の利点を活用し、同一敷地内の各種サービス事業所を中心に積極的に地域交流に関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・町、社協の公職を受け、事業所として高齢者福祉行政に対する意見を発信している。 ・介護予防教室の開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・1ユニット9人の増築にあたって意見を求めたり、入居利用者の現状報告をしながら情報交換を行っている。	事業所では運営推進会議メンバーと日常的に交流を図り、事業所のサービス向上につながる取り組みを行っているが、会議日程の都合などにより、メンバー全員による定期的な会議開催ができない状況になっている。	昨年度より取り組まれている目標達成計画に沿って、更に充実が図られることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・入居判定会議や運営推進会議の構成メンバーに加わってもらい助言をいただいている。	法人代表者や管理者は日常的に役場及び関連行政機関と連携を図り、諸問題解決や事業所のサービス向上につながる取り組みを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・正しく理解できているとは言えないが、尊厳、敬う気持ちを大切にしている。 ・しばる等の拘束はしたことがない。施錠も昼間は掛けことがない(夜間のみ施錠)	事業所では、内部研修会の充実をはかり、身体拘束に関する事項について職員とともに更なる確認を行い、身体拘束及び身体拘束につながりそうな事案を随時検証しながらサービスを提供している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・昼間、夜間の職員数を常に複数配置し、見過ごされないよう配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要な場合は、司法書士と連携を取りながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約、解約時の説明は理事長、管理者が行っている。その都度不安なことや疑問に思っていることはその場で確認している。解約時には必要に応じて家族の出来ないことを伺い、GHで対応することもある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族来所時に、ご意見、ご要望がないか確認するようにしている。ご意見等があった時は、役職者で検討するか、月1回の社内研修で検討し、対応している。	面会時を中心として利用者家族とは意見交換を行っている。また、受診後や状態が変化した場合は随時電話連絡を行い、家族の意向を確認し事業所運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の社内研修の中で意見や提案を聞く機会を設け実践している。また、必要に応じてその場で思いついたことは声に出すよう促している。 ・今回、現場リーダーに従業員との個別面談を行っている。	管理者及び現場リーダーは、社内研修をはじめ職員と意見交換する機会を設け、事業所の運営に意見反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員、過剰な勤務にならないよう、毎月勤務希望を聞き、希望通りの勤務表を作成することにより、職員の精神的な負担を取り除いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修案内が来ると必ず、全従業員に周知し参加者の確認を行っている。また、10月より職場内での介護技術講習を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今現在、外部からの研修の受け入れは行っているが、こちらから外部へ実習をしに行ったことはないため検討していきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・センター方式の一部を抜粋して、本人の情報を収集し実践している。また、日々のコミュニケーションからの中から本人との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所の段階で、家族のご意見を伺い対応している。GH側からも入所してから落ち着くまでの間、ご家族にもご協力してもらうよう説明し、理解してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所前に、介護支援専門員と管理者で聞き取り調査を行い、本人、家族がどのようなサービスを希望しているか確認し、実践している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・自身が出来ることは行ってもらい、出来ない部分を支援するよう心がけている。また、その日の気分によって手伝いをしてくれるかも確認している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・入所後も訪問してもらうようお願いしている ・定期受診は家族にお願いし、入居者、家族との関係が途切れないう対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	・個人的な対応は難しいため、町のイベントなど人が集まる所に参加している。	事業所では隣接する役場内で開催される催事を中心として、地域との交流を支援している。利用者の馴染みの関係にある親類や知人の来訪を、制限することなく受入れを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・現在、ゆうの里、あいの里が繋がったことにより、利用者同士の状況に合わせ行き来し、利用者同士のトラブルが起きないように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・こちらから連絡を取ることはないが、連絡が来たり、訪問してきた際には、相談を聞いたり、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・センター方式を使用し、本人の状況把握に努めている。また、日常の中で本人が何を望んでいるかを聞き、こちら側で出来ること、出来ないことを検討し実践している。	事業所では介護支援専門員を中心として、利用者から事業所での生活についての希望の聞き取りを行い、アセスメントと共に活用し、可能な限り介護計画に反映をしている。聞き取り困難な場合、家族からの情報把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式を使用し、今までの生活に近い環境になるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・いつもと違う状況にあったときは、引き継ぎの中で必ず報告するようにしている。それでも引き継ぎが漏れることがあるため、個別に用意した連絡簿に記入するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・3ヶ月に1回、ケアマネージャーと担当職員とでケアプランを見直し、現状にあったプランを作成している。作成後、家族にも確認してもらい了承を得ている。必要に応じて家族とカンファレンスを実施している。	アセスメントを基にして作成された介護計画について、定期的にモニタリングを開催し、利用者にとって最適な介護計画になるようにカンファレンスなどを通じ、検討が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日誌の中に個別のケース記録を付け、さらに連絡簿を付ける事により、職員全員が入居者の前後の状況を把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・入所前より利用していた生きがい(通所事業)を、本人の希望もあり、入所後も利用できるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・消防署に名簿を提出し、防火、救急の支援をもらっている。 ・町内の小・中学生のボランティアにも訪問してもらっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診は基本家族が対応となっているため、本人、家族が望む病院に受診することは可能となっているが、家族が対応できない場合は地元の診療所に変更してもらっている。	町外での受診は家族対応を基本としているが、家族対応が出来ない場合や緊急時には、事業所で臨機応変に対応を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職員がいない。また、訪問診療もないため、定期受診時に看護師、Drに相談し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入居者が入院した際は、ほぼ毎日スタッフが病院に顔を出すようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・受診時の状況により、GHで出来ること、出来ないことを医師に伝え助言を頂きながら、家族にもその旨を伝え今後の方針を共有している。	事業所では、家族の意向に沿って、主治医と十分な話しあいの下で対応している。既に終末期対応を行った事例はあるが、終末期対応に向けた書面を整備し、更なる充実に向けた取り組みが検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に最低1回は消防署の協力を頂いて普通救命講習を受けるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の避難訓練を実施している。非常時に備え避難訓練の回数を増やしていきたい。	事業所では、消防署や関係者、地域住民の参加の中で定期的に防災訓練を実施している。非常時の備蓄食糧の準備や災害を想定した役場との協議など、積極的に取り組みが行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入居者の会話をする時は、他入居者、来客者などに分からないようアルファベットで言うようにしている。	個人の尊厳を守るために、接遇に関する内部研修を開催し、個人情報保護への取り組み、個人記録記載に関する注意事項などを定期的に確認し共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・基本、何を行うにも、本人に選択肢を与え、自己決定できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日の中で決まて行うもの(体操、ゲームなど)は有るが、強制参加ではなく、本人の意思で参加の有無を決めてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・身だしなみ関係は本人に任せている。できない方については職員が本人に確認しながら決めてもらうよう対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・入所前の事前聞き取り調査の中で本人の好き嫌いを確認し、入所してからはその情報を元に嫌いなものは出さないよう配慮している。また日常の会話の中で食べたい物を聞き、希望があった物を出せるよう努めている。	事業所では、入居者の個人の意向や体調を見極めながら、食事作りや片付けに参加できるように支援を行っている。食べ物に関する嗜好の確認や、食事が量が低下した際の対応などに工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・本人の状態や、食事・水分摂取量の記録を元に、食事や水分の形状を変え、少しでも摂取してもらえるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、職員が付き添い自力で行える方には見守りし、できない方については支援している。 ・夜間、必ず義歯を預かり義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の利用者に合わせパット、リハパン、オムツを使い分けている。基本排泄場所はトイレとし、必要に応じ、夜間PTイレを設置している。排泄時間を確認し、トイレに行くような素振りがあれば誘導している。	事業所では、排泄誘導を介護計画に基づいて行い、可能な限りの排泄の自立がなされるように支援を行っている。また尿や便の回数や状態などの記録を行い、必要に応じて医師より処方された下剤を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎朝、軽体操やゲームを取り入れ、少しでも体を動かせるよう実施している。 ・水分もゼリーなどに変更し少しでも多く摂取してもらえるよう対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴は毎日行っている。その日の入浴予定者のみ朝に決め、本人に確認し入浴するか決めてもらい、拒否する場合は本人の意思を尊重している。	事業所では毎日入浴が行えるように準備を行い、声掛けや誘導に配慮しながら、清潔が保たれるように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・状況に合わせて、職員と話をしたり、TVを見てもらったりと無理に寝てもらうことはない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬担当を中心に全職員が薬に触れる機会を増やしているが、まだ用法や副作用についての理解は不十分のため、勉強していきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・毎食後の茶碗洗い、茶碗拭きなどは利用者の方々に行ってもらっているが、今後、一人ひとりにあった役割を見出していきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・本人が散歩をしたい時には職員引率の元、行っている。 ・その時の状況によるが、町内ドライブを行ったり、季節で楽しめるもの(桜、菊祭りなど)を見学しに行ったりしている。	事業所では一般的な外出行事を計画し、定期的に外出する機会を設けている。また、役場や事業所周辺には、見守りや引率の下で外出ができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人より、希望があれば¥3000～¥5000程度所持してもらっている。職員が頼まれた物を用意するケースが多いため、直接、本人がお店に行く機会を増やしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・全居室に電話回線があるため、電話が必要な方については設置してもらっている。 ・年賀状のやり取りも行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・その時々季節感を出すために、職員が飾り付けを行っている。今後は、職員だけで空間作りを行うのではなく、利用者を巻き込んだ空間作り(衣・食・住)に努めていきたい。 ・利用者が作成した絵葉書などをルームに展示している	食堂や玄関、廊下やユニットをつなぐ渡り廊下は開放的であり、入居者にとり自由にくつろぐことができる空間になっている。また事業所内は床暖房が設置され、廊下に歩行の妨げとなる暖房器具がなく、安全性が高い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ゆうの里とあいの里が廊下で繋がった事により、気の合った利用者同士の交流ができるようになっていく。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所前の段階で、本人の使い慣れた物、慣れ親しんだ物を持ってきてもらうよう促している。居室のレイアウトはご家族と本人にお願いしている。	入居者は仏壇や、家族の写真、受賞した勲章や思い出の品々を持ち込み、自宅同様に落ち着いて生活が送れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ、居室を間違える事もあるので、間違えてしまう利用者の居室には名前を貼って対応。トイレにも「便所」と貼り紙をしている。		